

活用ナビ

①【ねらい】江戸幕府の大名の配置の特徴を考える。

- ②● 題を読みましよう。
- 「親藩」「譜代」「外様」の意味を教科書から探しましよう。
 - 「万石」とは何のことでしょう。
- ※「一石」は、大人一人が食べる一年間の米の量に相当

③● 親藩や譜代大名はどこに配置されているでしょうか。

※親藩のみだと傾向がわかりにくいので、「親藩」と「譜代大名」と一緒に考えさせる。「幕府が直接治めた主な場所」とも関連づけたい。

③● 外様大名はどこに配置されているでしょうか。

※江戸から離れているところが多いことに気づかせる。

④● 幕府が、そのような大名配置したのはなぜでしょう。

※③のような大名配置を幕府が行った理由について考えさせる。

その際、参勤交代や土木工事等の内容とも関連づける。

④● その他にどのような支配をしたのでしょうか。教科書から探してみましよう。

⑤● 幕府の大名の支配についてノートにまとめましよう。それについて、自分の考えも書きましよう。

6年-12

2-6 幕府の政治と人々の暮らし
江戸幕府と大名

P140~P141

名前

6年 組 番

①【ねらい】江戸幕府の大名の配置の特徴を考える。

- ②【基本】教科書の2の資料を見てみよう。
- ・ 題を読もう。
 - ・ 「親藩」「譜代」「外様」の意味を教科書から探そう。
 - ・ 「万石」とは何か。

- ③【ポイント】2の資料を読み取ろう。
- ・ 親藩や譜代大名はどこに配置されているだろうか。

- ・ 江戸、名古屋、京都、大阪の近くといった大事そうな土地に多い。
- ・ 幕府が直接治めた主な場所の周りは親藩や譜代大名が多い。
- ・ 地方にも配置されている。外様大名を見張るためかもしれない。

・ 外様大名はどこに配置されているだろうか。

- ・ 九州・中国・四国・東北など江戸から遠いところに多く配置されている。
- ・ 参勤交代の時に費用がかかりそうな場所に多い。
- ・ 勢力が強そうな外様大名（伊達、前田、細川、島津）は江戸から離れている。

④幕府が、そのような大名配置にしたのはなぜだろうか。

- ・ 重要な場所は親藩や譜代大名を配置して力が及ぶようにした。外様大名は遠い場所に配置し、力を弱めようとした。
- ・ 幕府にとって都合のよい配置をして、幕府を安定させようとした。
- ・ その他にどのような支配をしたのだろうか。教科書から探してみよう。

- ・ 武家諸法度というきまりを定めた。 ・ 江戸城の修理や土木工事を命じた。
- ・ 参勤交代の制度を作り、大名の妻や子どもを人質にした。

⑤幕府の大名支配についてノートにまとめよう。自分の考えも書こう。

©社会科資料読解ワークシート開発プロジェクト（東北学院大学 佐藤正寿，教育出版社株式会社，株式会社教育同人社）2020

資料の読解

江戸幕府による大名の配置を表したのが、この地図である。この地図には、長きにわたる江戸幕府の安定の要因が示されている。

江戸幕府は全国に200以上の藩を置き、将軍家との関係により、親藩、譜代、外様に区別した。そして、外様を江戸から遠く離れたところにする配置を行い、参勤交代や土木工事等で多大な経費を負担させた。江戸、京都、大阪などの主要都市や佐渡の金山などの地は幕府が直轄し、その周辺は親藩大名、譜代大名で固めた。また、場所によっては外様大名同士が連携しないように、親藩や譜代大名の一部を遠い地方に配置した。このような配置により、幕府は安定した統治が可能となったのである。

読解の方法

- (1) 最初に親藩、譜代、外様のそれぞれの意味について、教科書を用いて確認する。その際、「万石」の意味も確認し、形が大きい大名は多くの土地を治めていたことを理解させる。
- (2) 次に、諸大名の配置の特徴について考えさせる。一気に考えさせるのではなく、大名を区別して考えさせる方が子どもたちにとっては考えやすい。ただし、親藩と譜代大名は幕府がもともと支配していた大名なので、この場合には一緒に傾向を考えさせたい。そうすると、親藩と譜代大名は直轄地である重要都市の周辺に配置されていること、外様大名は江戸から遠い地に配置されていることが理解できる。
- (3) 続いて、江戸幕府がなぜそのような配置にしたのか考えさせる。特に外様大名を遠くに配置した理由は、参勤交代等の他の支配と関連づけて考えさせる。
- (4) さらに他の様々な支配も教科書から理解させ、それらも大名の配置と関係づけられていることをおさえたい。